

# 大阪神戸病院連合麻酔科専門研修プログラム

(基幹施設：大阪府済生会吹田病院)

## 1. 専門医制度の理念と専門医の使命

### ① 麻酔科専門医制度の理念

麻酔科専門医制度は、周術期の患者の生体管理を中心としながら、救急医療や集中治療における生体管理、種々の疾病および手術を起因とする疼痛・緩和医療などの領域において、患者の命を守り、安全で快適な医療を提供できる麻酔科専門医を育成することで、国民の健康・福祉の増進に貢献する。

### ② 麻酔科専門医の使命

麻酔科学とは、人間が生存し続けるために必要な呼吸器・循環器等の諸条件を整え、生体の侵襲行為である手術が可能ないように管理する生体管理医学である。麻酔科専門医は、国民が安心して手術を受けられるように、手術中の麻酔管理のみならず、術前・術中・術後の患者の全身状態を良好に維持・管理するために細心の注意を払って診療を行う、患者の安全の最後の砦となる全身管理のスペシャリストである。同時に、関連分野である集中治療や緩和医療、ペインクリニック、救急医療の分野でも、生体管理学の知識と患者の全身管理の技能を生かし、国民のニーズに応じた高度医療を安全に提供する役割を担う。

## 2. 専門研修プログラムの概要と特徴

本専門研修プログラムは、専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修の到達目標を達成できる専攻医教育を提供し、地域の麻酔診療を維持すべく麻酔、ペインクリニック、集中治療、緩和医療を網羅したジェネラリストと、心臓血管麻酔、小児麻酔、産科麻酔などの専門分野を有するスペシャリストの両面を備えた麻酔科専門医を育成する。

## 3. 専門研修プログラムの運営方針

- 4年間を通じて、基幹施設と連携施設とで計画的に研修を行う。個々の研修者の研修先は、研修委員会で決定する。個々の研修者が、特殊な麻酔及びサブスペシャリティー領域の研修(集中治療、ペインクリニック・緩和医療)を含む研修カリキュラムを達成できるようにローテーション計画を立案して実施する。研修者の研修施設への配属は、研修委員会で協議して決定する。
- 最低経験症例を満たしながらも、各自の希望を相談しサブスペシャリティー

の構築を目指す柔軟なプログラムとする。

- 研修1年目は原則基幹施設で研修を行う。
- 4年間の研修中に基幹施設での研修を原則2年含む。
- 月に1度程度の割合で抄読会や勉強会を実施。その論文は、現在の周術期管理に影響を受けると思われる国際的なガイドラインやレビューを対象とする。
- 月曜日から金曜日の朝は各症例のプレゼンテーションを行い、同時に最終チェックを行う。また毎週曜日を決めて、術後カンファレンスを行い症例ごとに専門研修指導医を含めた上席医とともに検討を行う。
- 基幹施設では循環器内科と心臓血管手術の麻酔を行う連携施設では心臓血管外科との症例検討会を開催する。
- 末梢神経ブロックセミナー、鎮静セミナー、術後疼痛セミナー等を年数回開催する。
- 日本麻酔科学会支部の行う症例検討会、年に3-4回開催する麻酔関連研修会、京滋麻酔科医会講演会への参加を必須とする。
- 本プログラムの研修医師には、連携施設である京都府立医科大学の附属図書館への電子アクセス及びデータベースの検索権限を発行し、自己学習の環境を整える。
- 医療安全や医療倫理、院内感染に関する院内講習会が定期的で開催されており、受講を義務とする。

#### 研修実施計画例

##### 年間ローテーション表

	1年目	2年目	3年目	4年目
A	済生会吹田病院	済生会吹田病院	連携施設A 連携施設B	連携施設B 連携施設A
B	済生会吹田病院	連携施設A 連携施設B	連携施設A 連携施設B	済生会吹田病院

週間予定表

済生会吹田病院の例

	月	火	水	木	金	土	日
午前	手術室	手術室	手術室	代休	手術室	ミニレク チャー (隔週)	休み
午後	手術室	手術室	手術室	代休	手術室	休み	休み
当直			当直				

4. 研修施設の指導体制と前年度麻酔科管理症例数

本研修プログラム全体における前年度合計麻酔科管理症例数：11,068症例

本研修プログラム全体における総指導医数：22人

	合計症例数
小児（6歳未満）の麻酔	861症例
帝王切開術の麻酔	148症例
心臓血管手術の麻酔 (胸部大動脈手術を含む)	624症例
胸部外科手術の麻酔	376 症例
脳神経外科手術の麻酔	285症例

① 専門研修基幹施設

大阪府済生会吹田病院

研修プログラム統括責任者：梁勉

専門研修指導医：梁勉（麻酔）

上田雅史（麻酔）

城村佳揚子（麻酔）

専門医：汲田衣里（麻酔）

山北俊介（麻酔）

麻酔科認定病院番号：499

特徴：大阪府吹田市の中核的病院

麻酔科管理症例数 2,449症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	12症例
帝王切開術の麻酔	90 症例
心臓血管手術の麻酔	0 症例

(胸部大動脈手術を含む)	
胸部外科手術の麻酔	60 症例
脳神経外科手術の麻酔	17症例

## ② 専門研修連携施設 A

京都府立医科大学附属病院

研修実施責任者：佐和貞治

専門研修指導医： 佐和 貞治 (麻酔)  
橋本 悟 (集中治療)  
天谷 文昌 (麻酔、集中治療)  
溝部 俊樹 (麻酔)  
伊吹 京秀 (麻酔、ペインクリニック)  
加藤 祐子 (麻酔、集中治療)  
柴崎 雅志 (麻酔)  
上野 博司 (ペインクリニック・緩和医療)  
深澤 圭太 (ペインクリニック・緩和医療)  
小川 覚 (麻酔)  
中山 力恒 (麻酔)  
石井 祥代 (麻酔)  
山崎 正記 (麻酔)  
専門医： 前田 祥子 (麻酔)  
清水 優 (麻酔)  
木下 真央 (麻酔)

麻酔科認定病院番号：18

特徴：集中治療、ペインのローテーション可能

麻酔科管理症例数5,193症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	25症例
帝王切開術の麻酔	0症例
心臓血管手術の麻酔 (胸部大動脈手術を含む)	25 症例
胸部外科手術の麻酔	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	0症例

## ③ 専門研修連携施設 B

淀川キリスト教病院

研修実施責任者：川村光喜  
 専門研修指導医：川村光喜（麻醉）  
 平松典子（麻醉）

麻醉科認定病院番号：548

特徴：大阪市北部医療圏の中核医療機関

麻醉科管理症例数 2,862症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻醉	149症例
帝王切開術の麻醉	9 症例
心臓血管手術の麻醉 （胸部大動脈手術を含む）	66 症例
胸部外科手術の麻醉	80 症例
脳神経外科手術の麻醉	48症例

JCHO神戸中央病院

研修実施責任者：平田誉  
 専門研修指導医：平田誉（麻醉）  
 藤本 俊一（麻醉）

麻醉科認定病院番号：426

特徴：神戸市北区を中心とする地域の基幹病院

麻醉科管理症例数 1,034症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻醉	4症例
帝王切開術の麻醉	0 症例
心臓血管手術の麻醉 （胸部大動脈手術を含む）	0 症例
胸部外科手術の麻醉	1 症例
脳神経外科手術の麻醉	50症例

明石市立市民病院

研修実施責任者：上藤哲郎  
 専門研修指導医：上藤哲郎（麻醉）

麻醉科認定病院番号：481

特徴：兵庫県明石市の中核病院

麻醉科管理症例数1,639 症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻醉	2症例

帝王切開術の麻酔	0 症例
心臓血管手術の麻酔 (胸部大動脈手術を含む)	0 症例
胸部外科手術の麻酔	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	9症例

## 5. 募集定員

1名

## 6. 専攻医の採用と問い合わせ先

### ① 採用方法

専攻医に応募する者は、日本専門医機構に定められた方法により、期限までに（2018年9月ごろを予定）志望の研修プログラムに応募する。

### ② 問い合わせ先

本研修プログラムへの問い合わせは、電話、e-mail、郵送のいずれの方法でも可能である。

済生会吹田病院 人材開発室 係長 植西靖之

〒564-0013

大阪府吹田市川園町1番2号

TEL 06-6382-1903

E-mail kensyubu@suita.saiseikai.or.jp

URL : <http://www.suita.saiseikai.or.jp>

## 7. 麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識・技能・態度について

### ① 専門研修で得られる成果（アウトカム）

麻酔科領域の専門医を目指す専攻医は、4年間の専門研修を修了することで、安全で質の高い周術期医療およびその関連分野の診療を実践し、国民の健康と福祉の増進に寄与することができるようになる。具体的には、専攻医は専門研修を通じて下記の4つの資質を修得した医師となる。

- 1) 十分な麻酔科領域、および麻酔科関連領域の専門知識と技能
- 2) 刻々と変わる臨床現場における、適切な臨床的判断能力、問題解決能力
- 3) 医の倫理に配慮し、診療を行う上での適切な態度、習慣
- 4) 常に進歩する医療・医学に則して、生涯を通じて研鑽を継続する向上心

### ② 麻酔科専門研修の到達目標

国民に安全な周術期医療を提供できる能力を十分に備えるために、研修期間中に別途資料「麻酔科専攻医研修マニュアル」に定められた専門知識，専門技能，学問的姿勢，医師としての倫理性と社会性に関する到達目標を達成する。

### ③ 麻酔科専門研修の経験目標

研修期間中に専門医としての十分な知識，技能，態度を備えるために，別途資料「麻酔科専攻医研修マニュアル」に定められた経験すべき疾患・病態，経験すべき診療・検査，経験すべき麻酔症例，学術活動の経験目標を達成する。

このうちの経験症例に関して，原則として研修プログラム外の施設での経験症例は算定できないが，地域医療の維持など特別の目的がある場合に限り，研修プログラム管理委員会が認めた認定病院において卒後臨床研修期間に経験した症例のうち，専門研修指導医が指導した症例に限っては，専門研修の経験症例数として数えることができる。

## 8. 専門研修方法

別途資料「麻酔科専攻医研修マニュアル」に定められた1) 臨床現場での学習，2) 臨床現場を離れた学習，3) 自己学習により，専門医としてふさわしい水準の知識，技能，態度を修得する。

## 9. 専門研修中の年次毎の知識・技能・態度の修練プロセス

専攻医は研修カリキュラムに沿って，下記のように専門研修の年次毎の知識・技能・態度の到達目標を達成する。

### 専門研修1年目

手術麻酔に必要な基本的な手技と専門知識を修得し，ASA 1～2度の患者の通常の定時手術に対して，指導医の指導のもと，安全に周術期管理を行うことができる。

### 専門研修2年目

1年目で修得した技能，知識をさらに発展させ，全身状態の悪いASA 3度の患者の周術期管理やASA 1～2度の緊急手術の周術期管理を，指導医の指導のもと，安全に行うことができる。

### 専門研修3年目

心臓外科手術，胸部外科手術，脳神経外科手術，帝王切開手術，小児手術などを経験し，さまざまな特殊症例の周術期管理を指導医のもと，安全に行うことができる。

また、ペインクリニック、集中治療、救急医療など関連領域の臨床に携わり、知識・技能を修得する。

#### 専門研修4年目

3年目の経験をさらに発展させ、さまざまな症例の周術期管理を安全に行うことができる。基本的にトラブルのない症例は一人で周術期管理ができるが、難易度の高い症例、緊急時などは適切に上級医をコールして、患者の安全を守ることができる。

### 10. 専門研修の評価（自己評価と他者評価）

#### ① 形成的評価

- 研修実績記録：専攻医は毎研修年次末に、**専攻医研修実績記録フォーマット**を用いて自らの研修実績を記録する。研修実績記録は各施設の専門研修指導医に渡される。
- 専門研修指導医による評価とフィードバック：研修実績記録に基づき、専門研修指導医は各専攻医の年次ごとの知識・技能・適切な態度の修得状況を形成的評価し、**研修実績および到達度評価表、指導記録フォーマット**によるフィードバックを行う。研修プログラム管理委員会は、各施設における全専攻医の評価を年次ごとに集計し、専攻医の次年次以降の研修内容に反映させる。
- 年度ごとに多種職（手術部看護師長、集中治療部看護師長、臨床工学技師長、担当薬剤師）による専攻医の評価について、文書で研修管理委員会に報告し、次年次以降の専攻医への指導の参考とする。

#### ② 総括的評価

研修プログラム管理委員会において、専門研修4年次の最終月に、**専攻医研修実績フォーマット、研修実績および到達度評価表、指導記録フォーマット**をもとに、研修カリキュラムに示されている評価項目と評価基準に基づいて、各専攻医が専門医にふさわしい①専門知識、②専門技能、③医師として備えるべき学問的姿勢、倫理性、社会性、適性等を修得したかを総合的に評価し、専門研修プログラムを修了するのに相応しい水準に達しているかを判定する。

### 11. 専門研修プログラムの修了要件

各専攻医が研修カリキュラムに定めた到達目標、経験すべき症例数を達成し、知識、技能、態度が専門医にふさわしい水準にあるかどうか修了要件である。各施設の研修実施責任者が集まる研修プログラム管理委員会において、研修期間中に行われた形成的評価、総括的評価を元に修了判定が行われる。

## 12. 専攻医による専門研修指導医および研修プログラムに対する評価

専攻医は、毎年次末に専門研修指導医および研修プログラムに対する評価を行い、研修プログラム管理委員会に提出する。評価を行ったことで、専攻医が不利益を被らないように、研修プログラム統括責任者は、専攻医個人を特定できないような配慮を行う義務がある。

研修プログラム統括管理者は、この評価に基づいて、すべての所属する専攻医に対する適切な研修を担保するために、自律的に研修プログラムの改善を行う義務を有する。

## 13. 専門研修の休止・中断，研修プログラムの移動

### ① 専門研修の休止

- 専攻医本人の申し出に基づき、研修プログラム管理委員会が判断を行う。
- 出産あるいは疾病などに伴う6ヶ月以内の休止は1回までは研修期間に含まれる。
- 妊娠・出産・育児・介護・長期療養・留学・大学院進学など正当な理由がある場合は、連続して2年迄休止を認めることとする。休止期間は研修期間に含まれない。研修プログラムの休止回数に制限はなく、休止期間が連続して2年を越えていなければ、それまでの研修期間はすべて認められ、通算して4年の研修期間を満たせばプログラムを修了したものとみなす。
- 2年を越えて研修プログラムを休止した場合は、それまでの研修期間は認められない。ただし、地域枠コースを卒業し医師免許を取得した者については、卒後に課せられた義務を果たすために特例扱いとし2年以上の休止を認める。

### ② 専門研修の中断

- 専攻医が専門研修を中断する場合は、研修プログラム管理委員会を通じて日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会へ通知をする。
- 専門研修の中断については、専攻医が臨床研修を継続することが困難であると判断した場合、研修プログラム管理委員会から専攻医に対し専門研修の中断を勧告できる。

### ③ 研修プログラムの移動

- 専攻医は、やむを得ない場合、研修期間中に研修プログラムを移動することができる。その際は移動元、移動先双方の研修プログラム管理委員会を通じて、日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会の承認を得る必要がある。麻酔科領域研修委員会は移動をしても当該専攻医が到達目標の達成が見込まれる場合にのみ移動を認める。

## 14. 地域医療への対応

本研修プログラムの連携施設には、地域医療の中核病院として明石市立市民病院が入っている。医療資源の少ない地域においても安全な手術の施行に際し、適切な知識と技量に裏付けられた麻酔診療の実施は必要不可欠であるため、専攻医は、大病院だけでなく、地域での中小規模の研修連携施設においても一定の期間は麻酔研修を行い、当該地域における麻酔診療のニーズを理解する。

#### **15. 専門研修管理委員会の運営計画及び専門研修プログラムの評価**

本研修プログラムは、プログラム統括責任者のもとで、各施設の研修責任者で構成される専門研修管理委員会によって、定期的に評価、改善される。委員会は年に2回の開催を基本とする。基幹施設で開催されるFD講習会や日本麻酔科学会のe-learningを通じて、専門研修指導医の指導能力向上に努める。

#### **16. 専門研修指導医の研修計画**

本プログラムの専門研修指導医は、事前に臨床研修指導医講習会を受ける。また、日本麻酔科学会の主催するFD講習の学会での受講もしくは日本麻酔科学会のEラーニングでの受講に努めることとする。

#### **17 専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）**

研修期間中に在籍する研修施設の就業規則に基づき就業する。専攻医の就業環境に関して、各研修施設は労働基準法や医療法を順守することを原則とする。プログラム統括責任者および各施設の研修責任者は専攻医の適切な労働環境（設備、労働時間、当直回数、勤務条件、給与なども含む）の整備に努めるとともに、心身の健康維持に配慮する。

年次評価を行う際、専攻医および専門研修指導医は研修施設に対する評価(Evaluation)も行い、その内容を専門研修プログラム管理委員会に報告する。就業環境に改善が必要であると判断した場合には、当該施設の施設長、研修責任者に文書で通達・指導する。